

健康福祉アカデミー宝塚 (ホームヘルパー養成研修2級課程・通学)

☞**取り組み内容のポイント**☞ 少子高齢化社会の中、地域のつながりが希薄化し、孤立化が進んでいる。一方で孤独死、引きこもり、生活困窮者の増加等の新たな福祉的問題が深刻化してきている。こうした状況の中で、今まで培ってきた施設福祉の知識・技術・ネットワーク人材を活用し、地域へ還元することで、地域の福祉力・介護力の醸成をし、地域福祉の増進に寄与する。

兵庫県

社会福祉法人

希望の家

〒665-0825 兵庫県宝塚市安倉西3-1-5 希望の家ワークセンター
TEL: 0797-87-0141 FAX: 0797-84-0738

●法人創立年

昭和36(1961)年

●法人実施事業

- ①経営施設数合計: 6施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】:
 - 障害者支援施設…3(施設入所支援…3、生活介護…3、就労移行支援…1、就労継続支援B型…1、短期入所…3)
 - 障害者相談支援事業所…1
 - 発達障害支援センター…1
 - 障害児通所支援事業…1

●法人の理念・経営方針

理念…一人ひとりの意思と人権を尊重する。
・一人ひとりが社会の一員として、ともに生きる社会づくりに参画する。
・一人ひとりが明るく、楽しく、幸せに暮らせる地域づくり、ホームづくりをめざす。
方針…基本理念に基づき、利用者が生き生きと明るく、楽しい生活ができるよう充実した施設サービス等に努めると共に、利用者の意思、意欲を尊重し利用者にあった個別支援計画により、

自立した生活や就労をめざしたケア・指導・訓練等の支援を行う。

●取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款への記載: 記載していない
- ②事業報告・計画への記載: 記載している

●取り組みを実施している施設の概要

【施設名】: 希望の家ワークセンター
【施設種別及び利用定員】: 障害者支援施設
(施設入所支援…定員40名 短期入所支援…定員2名/生活介護…定員32名 就労移行支援…定員6名 就労継続支援B型…定員10名)

●活動内容

- ◇活動開始年: 平成19(2007)年4月
- ◇活動の対象者: 地域での福祉活動や健康づくり、生きがいづくり、介護に関心のある方及び介護業務に従事することを希望する方。
- ◇活動の頻度・時間
講義: 週2回午後、演習: 平日終日(研修講座全153時間を半年間に渡り行う) 実習: 平日終日5日間(2か月間で日程調整)

●活動実施の背景、実施にいたった理由

平成12(2000)年の社会福祉法の制定により、地域福祉の推進が規定され、長年、施設経営を行ってきた本法人も地域福祉の推進が課題となった。地域に向けた事業を検討してきた中で若手ボランティアの減少傾向、地域の福祉活動の担い手不足、ホームヘルパーの養成、施設職員のスキルアップのツールとして、また法人の地域貢献事業として、平成19(2007)年度から地域住民向けの「健康福祉アカデミー宝塚」を開講し、今年度で6年目を迎える。

この事業は、当法人の身の丈で実施することとし、施設内の専門職員(一部外部機関協力)を講師にすると共に施設に関係のある大学教授、病院長、歯科医師、薬剤師等に協力を求め無報酬で講師をお願いし、ホームヘルパー2級課程の科目に加え、健康・医療・福祉に関係する講義を行っている。また、受講には、駅前の施設(病院会議室)を無償

で借り上げ、だれでも気軽に受講できるように配慮した。

●実施内容

毎年10月に開講、翌年3月までの半年間に渡りホームヘルパー2級課程に最低必要な133時間に20時間の独自科目(生きがいと健康・福祉増進のための講座)を加えた計153時間、定員30名の講座であり、法人内資源の活用だけでなく宝塚市社会福祉協議会にも講師派遣及び実習施設として協力していただいている。

講座は大きく講義・演習・実習の3課程に分かれている。講義(61時間)はテキストを使用し介護や医療の基礎知識を学び、演習(42時間)はグループワークやベッドメイキング、移動・移乗介助といった実技中心の内容となる。実習(30時間)は法人内施設及び宝塚市社会福祉協議会各施設で計5日間行われる。

独自の生きがい講座については、福祉・医療・

健康等の現場で活躍する講師陣が「正しい薬の選び方」「歯の構造と動き」「救命講習」といった日常生活に密着したテーマで講義をしていただき、受講生からも好評を得ている。

◎活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

- ①毎年アンケートで、講義の内容は高い評価を受け、年々申し込み者が増加し、年齢も20歳代から60歳代まで幅広い中で40歳前後が最も多く、一般の方のこの講座への関心が高まってきた。
- ②受講終了後、学んだ意識や技術を家族の介護や地域のボランティア活動に生かしている。
- ③受講終了後、福祉の担い手として福祉現場で働く卒業生も出てきている。
- ④受講終了後、その年度毎に組織化して、当法人・施設の行事にボランティアとして参加。
また、同じ講座を6か月にわたり受講することで「福祉を介した仲間作り」ができています。
- ⑤職員が講師になることで、テキストの予習を通じて、改めて専門職の基礎を復習し、日々の業務にフィードバックすることができる。



希望の家3施設合同運動会にボランティアとして参加



生きがい講習「救命講習」

⑥本法人の障害者支援施設へ、パート職として就労を希望する者が多く出てきたため、重度化が進む施設へ、就労可能な時間帯の登録生活支援員として、昼間の手薄となる時間帯を支援員として働いている。

◎今後の展開

昨年度は定員30名の当講座に対し50名を超える応募があった。既卒者の口コミで広がり電話やメールによる問い合わせも後を絶たない。6年間に渡り毎年実施された講座により、当法人並び地域の福祉を支えていく人材の育成、福祉を身近に感じていただく機会の提供、ひいては地域貢献に繋がっていると考えている。しかし、介護保険制度の改正により、訪問介護員養成研修の体系が見直され、ホームヘルパー1級・2級といった研修区分が廃止されることとなる。したがって来年度より新たな地域住民に役立てて頂けるような事業を検討していきたいと考えている。

◎主な経費や財源及び人員等

※年間あたり			
主な経費（支出）	経費概算額	主な財源（収入）	財源概算額
印刷代	312,200円	受講料（テキスト代含）	792,000円
テキスト代	243,200円		
講師謝礼・交通費	125,000円		
消耗品費	72,000円		
郵送代・広報費	18,000円		
雑費	21,600円		
<合計>	792,000円	<合計>	792,000円

- ・取り組みに係わった職員数〔19〕名（内講師17名、事務局2名）※平成23（2011）年度
（職種等：施設長、医師、看護師、生活支援員、栄養士等）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模（平成23（2011）年度決算の事業活動収入）〔150,883〕千円
※法人全体の事業規模（同上）788,214〕千円



平成23年度開講式